

田岡俊次の

国際情勢の 行間を抉る

(13)



初の水爆実験を行なった北朝鮮と 最悪の危機に直面した日本

北朝鮮は8月29日、北海道南部

なる。

半径2km以内では全員が死亡、火

災が発生する。爆風効果は約2km以

内で大部分の建物が倒壊、約1・4

km以内では中性子とガンマ線を受け

た人が1ヵ月以内に死亡する。巻き

上げられた土砂は風下50ないし10

0kmで致命的放射線量を発する、と

されています。

威力160キロトンの水爆の「熱効果」

の半径が広島型の2・2倍とすれば、

約6・6kmの範囲で第2度火傷が起

こる。原爆の場合は熱効果は3km

とし、仮に国会議事堂が爆心地と

すれば、北は水道橋、南は三田、

西は千駄ヶ谷、東は八丁堀辺りまで

が範囲だが、160キロトン水爆だと、

北は巢鴨、南は大崎、西は中野、

東は錦糸町付近までが範囲になります。

半径6・6kmの円の面積は137km²、
東京23区の人口密度は1km²当たり1
万5000人だから、205万人が被
災する計算になる。ウイークデーの
昼間なら都心部の人口は遥かに多い
し、放射性降下物による被害も出る。

日本の政治、行政、経済の中心地が
壊滅すれば、救援、復興もすぐで
きない。

部の上空を越える「火星12」中距離ミサイルの発射実験を行ない、9月3日には6回目の核実験を実施、「弾道ミサイルに搭載できる水爆弾頭の実験に完全に成功した」と発表した。北朝鮮の核・ミサイル開発は急速に進み、米国を脅かすまでになりつつある。水爆の脅威はどの程度か、対抗策はあるのか。

田岡氏に尋ねてみた。（聞き手／本誌編集長・和泉貴志）

広島型原爆の10・6倍、都心なら200万人超が被災

Q：今回北朝鮮が実験した水爆の威力はTNT爆薬160キロトン（16万t）相当と防衛省は6日発表しました。もし使われればどんな被害ができるのでしょうか。

田岡：広島型原爆の威力は15キロトンだったから、今回の水爆の威力は約10・6倍です。

爆発力は水平方向と上方に向うから、被害半径は3乗根で2・2倍になる。広島型の場合には爆心地から約3km以内で第2度の火傷を起し、体の表面の30%以上に第2度火傷をおこす。すぐに治療しないと致命的に

小野寺防衛相唱える「攻撃能力保有」は非現実的の極み



PAC-3は1地点しか守れない（空自）

Q：こうなると日本は一層ミサイル防衛に巨費を投じざるを得ず、「敵基地攻撃能力」の必要性を唱える政治家も多くなります。それで「万全の態勢」を整えられますか。

田岡：今のミサイル防衛は形ばかり、気休め程度です。イージス対空システムを搭載したイージス艦は6隻、うち4隻が弾道ミサイル迎撃用の「SM3ブロック1a」ミサイルを8発ずつ積んでいます。他の2隻はその発達型である「SM3ブロック2a」を積んでいます。仮に8隻と陸上2カ所に各16発、計160発備えるなら、それだけで約5000億円になる。

イージスは弾道ミサイルの軌道の頂点付近、高度100km以上で目標の速度が落ちた所を狙う、それが撃ち漏らした物は航空自衛隊の「パトリオットPAC-3」が処理する構えだが、PAC-3の射程は20km以下、高度15km程度、ごく狭い地点しか守れない。

34基の発射機に4発ずつ積み、2基で1地点を守るが、計8発だから、これも4目標に対処できるだけです。

むために改修中で、さらに2隻のイージス艦建造予算（1隻1740億円）も決まっていて計8隻になります。またイージスシステムを陸上に配備する「イージス・アシヨア」も2セット（1セット約800億円）も導入の方針です。「SM3ブロック1a」は1発16億円もするが、その新型「ブロック2a」の価格は2倍になると見られます。

対空、対ミサイル迎撃用のミサイルは不発、故障もあるから、1目標に2発ずつ発射するのが一般的で、1隻に8発では4目標にしか対応できません。「弾の数が足りない」という声が海上自衛隊で出るのは当然です。仮に8隻と陸上2カ所に各16発、計160発備えるなら、それだけで約5000億円になる。

北朝鮮は旧式の「ノドン」（射程1300kmほど日本全域に届く）だけでも300発は持っていると言われ、ほぼ同時に多数を発射されると突破されます。核弾頭は当面は20発程度（量産開始とともに言われる）としても、通常（火薬）弾頭のものと混ぜて発射されると区別ができず、総てに対応するしかない。ミサイル防衛にはすでに「兆円8000億円程度使つたが、「今後さらに1兆円か」とも言われます。

このため「ミサイル防衛は完全ではないから、敵のミサイル基地を攻撃する能力を保有すべきだ」との声も高まり、自民党の政務調査会は今年3月政府に対しその検討を求めた。その中心人物は再び防衛相になった小野寺五典氏です。だが、これ程現実性を欠いた論は珍しい。攻撃をするには目標の位置を知ることが第一歩だが、それを考えずに攻撃能力だけを求めていた。

日本が630億円で3機購入する無人偵察機「グローバル・ホーク」はジェットエンジンつきのグライダーで、

「PAC-3」は射程を30kmに伸ばし

た「PAC-3MSE」に改裝中で、これまで1056億円の予算がつき、来年度概算要求にも205億円が入っているが、1地点しか守れないことに変わりありません。

北朝鮮は旧式の「ノドン」（射程1300kmほど日本全域に届く）だけでも300発は持っていると言われ、ほぼ同時に多数を発射されると突破されます。核弾頭は当面は20発程度（量産開始とともに言われる）としても、通常（火薬）弾頭のものと混ぜて発射されると区別ができず、総てに対応するしかない。ミサイル防衛にはすでに「兆円8000億円程度使つたが、「今後さらに1兆円か」とも言われます。

このため「ミサイル防衛は完全ではないから、敵のミサイル基地を攻撃する能力を保有すべきだ」との声も高まり、自民党の政務調査会は今年3月政府に対しその検討を求めた。その中心人物は再び防衛相になった小野寺五典氏です。だが、これ程現実性を欠いた論は珍しい。攻撃をするには目標の位置を知ることが第一歩だが、それを考えずに攻撃能力だけを求めていた。

日本が630億円で3機購入する無人偵察機「グローバル・ホーク」はジェットエンジンつきのグライダーで、

偵察衛星が常時北朝鮮を上空から監視し、ミサイルの位置も分かるよう思っている人が少なくない。偵察衛星は約90分で地球を南北に周回し、地球は東西に自転するから世界各

地上空を1日約1回、時速約2万7000kmで通過します。南北約450kmの北朝鮮上空は約1分で通過するから、飛行場や核実験場など固定目標の撮影はできるが、自走発射機やトレーラーに乗つて北朝鮮北部の山岳地帯の無数のトンネルに隠れ、出て来てミサイルを立てて発射するまで新型では10分程という弾道ミサイルの動きを常時監視するには不可能です。

赤道上空を高度約3万6000kmで周回する静止衛星は、この高度だと地球の自転の速度と釣り合つて、地表からは止まつているように見える、米国の「早期警戒衛星」はこの一種だが、地球の円周4万kmに近い距離だからミサイルなどは見えず、発射の際に出てる大量の赤外線（熱）を感知できるだけで、発射前に攻撃するには役立ちません。



順安飛行場で火星12の試射に臨む金正恩氏

中朝国境に近い弾道ミサイルの主要展開地域へ30分はかかる。相手が発射した後に弾着することになります。米軍、韓国軍が一挙に北朝鮮の弾道ミサイルを総て破壊できればよいが、米軍にもおよその展開地域は分かつていても、その精密な位置をリアルタイムで掴むのは至難の業。ダミーも多いから、一部だけ壊しても残りを撃つて来る。1991年の湾岸戦争でイラク軍は「スカッド」ミサイルの射程を延ばした「アル・フセイン」約40時間も飛べるから、常に数機を北朝鮮上空で旋回させておけば、移動式ミサイルも監視可能だが、領空侵犯だし、速度は遅く、最高高度は2万m程だから、北朝鮮が持つ旧式の対空ミサイルでも簡単に撃墜されます。防衛省は日本海の公海上空で飛ばすつもりだが、斜めに撮影するのでは、内陸の山岳地帯の谷間などは見張れません。

仮に発射機がトンネルから出て来てミサイルを立てたことが偶然分かつても、日本から発進する戦闘攻撃機F2が目標上空に到着するまで1時間はかかる。日本海上の護衛艦や潜水艦が巡航ミサイル「トマホーク」を発射しても、時速880kmだから、

88発を発射した。これに対し米軍は常時戦闘・攻撃機8機をイラクのミサイル発射地域上空に待機させていた。計4~50機(1日平均113機)を「スカッド・ハント」に出動させた。だが、発射を知つて駆けつけ発射機を壊すのが精々で、発射前に破壊できました。防衛省は日本海の公海上空で飛ばすつもりだが、斜めに撮影するのでは、内陸の山岳地帯の谷間などは見張れません。

仮に発射機がトンネルから出て来てミサイルを立てたことが偶然分かつても、日本から発進する戦闘攻撃機F2が目標上空に到着するまで1時間はかかる。日本海上の護衛艦や潜水艦が巡航ミサイル「トマホーク」を発射しても、時速880kmだから、

88発を発射した。これに対し米軍は常時戦闘・攻撃機8機をイラクのミサイル発射地域上空に待機させていた。計4~50機(1日平均113機)を「スカッド・ハント」に出動させた。だが、発射を知つて駆けつけ発射機を壊すのが精々で、発射前に破壊できました。防衛省は日本海の公海上空で飛ばすつもりだが、斜めに撮影するのでは、内陸の山岳地帯の谷間などは見張れません。

仮に発射機がトンネルから出て来てミサイルを立てたことが偶然分かつても、日本から発進する戦闘攻撃機F2が目標上空に到着するまで1時間はかかる。日本海上の護衛艦や潜水艦が巡航ミサイル「トマホーク」を発射しても、時速880kmだから、

88発を発射した。これに対し米軍は常時戦闘・攻撃機8機をイラクのミサイル発射地域上空に待機させていた。計4~50機(1日平均113機)を「スカッド・ハント」に出動させた。だが、発射を知つて駆けつけ発射機を壊すのが精々で、発射前に破壊できました。防衛省は日本海の公海上空で飛ばすつもりだが、斜めに撮影するのでは、内陸の山岳地帯の谷間などは見張れません。

仮に発射機がトンネルから出て来てミサイルを立てたことが偶然分かつても、日本から発進する戦闘攻撃機F2が目標上空に到着するまで1時間はかかる。日本海上の護衛艦や

孤立、武器輸入が途絶えて空軍も衰弱した。韓国空軍は防空の必要が薄れたから、戦闘機480機中、約310機を対地攻撃任務にあてている。陸軍は弾道ミサイル「玄武2型」(射程300~500km)を1700機ほど持っている。米空軍は今60機余しか韓国にないが、いざとなれば130機ほどの「航空宇宙遠征隊」が攻撃するなら在韓米空軍の作戦統制下で行なわないと混亂し、味方撃ちも起きかねない。「お手伝いしたい」と申し出ても、「邪魔だから来るな」と言われそうです。

Q:日本の対策としては「全国瞬時警戒システム」(Jアラート)の警報で住民に避難させることも始めたが、効果はありますか。田岡:全国1741自治体総てに受信機を置いたが、今回8月29日のミサイル発射でしたが、2011年12月と2016年2月に北朝鮮が「テホドン2」で人工衛星を打ち上げた際の2回だけ。その時は北朝鮮が発射の地点、時間帯、予定軌道などを事前に公表したから、集中的に見張っていて、1回目はミサイル発射の6分後、2回目は4分後に沖

伊拉克戦争では初日にサダメ・フセインを爆撃で殺そとしたが空振りに終わり、彼を拘束できたのはイラク全土を占領してから7カ月後でした。相手も警戒して所在を変えるから、首脳、要人の位置をリアルタイムで掴むのは至難の業。ダミーも多いから、一部だけ壊しても残りを撃つて来る。1991年の湾岸戦争でイラク軍は「スカッド」ミサイルの射程を延ばした「アル・フセイン」

繩に警報を出した。それ以外の度重なるミサイル発射実験では、予告がなかつたから警報は出せなかつたのです。

今回は午前5時58分に発射、4分後の6時2分に警報が出た。北朝鮮から発射されたミサイルは約8分で日本に落ちるから、その差4分の間に地下室などに逃げ込んだ幸運な人は熱と爆風は避けられます。ミサイル発射の赤外線を米軍の早期警戒衛星が感知すると、情報はすぐ日本にも伝わるが、弾道ミサイルは暫く垂直に上昇するからどこに向かうかは分かりません。かなり上昇して水平線上に姿を現し、九州西方の下甑島



特殊部隊による斬首作戦は現実的でない（米海軍）

Q 北朝鮮は米国本土の大部分に
真珠湾攻撃前夜と非常に似て
いる石油全面禁輸の危険性

「それでも遅いよりはましか」と思つたが、安倍首相は前夜から公邸に泊り待機していたことが分かった。北朝鮮は米国などに発射を誇示するため、偵察衛星が撮影しやすい平壌郊外の順安飛行場にミサイルを引き出し、前日から発射の構えを見せていたから、予告があつたと同然です。だから、実戦で全く予告なしに発射されれば退避の時間があるのか怪しい。

そもそも警報は防空壕や地下室などシエルターと一対になつて意味がある、有効な隠れ場所を設けずに警報を出しても、住民は「どうしろと言つのか」と当惑するだけです。

「それでも遅いよりはましか」と思つたが、安倍首相は前夜から公邸に泊り待機していたことが分かった。北朝鮮は米国などに発射を誇示するため、偵察衛星が撮影しやすい平壌郊外の順安飛行場にミサイルを引き出し、前日から発射の構えを見せていたから、予告があつたと同然です。だから、実戦で全く予告なしに発射されれば退避の時間があるのか怪しい。

や佐渡島の巨大レーダー「FPS5」が捉えると弾道計算で落下地点が推定できます。今回ははとにかく早く警報を出そうとしたから、大体の方向しか分からぬ時点で北海道から長野県まで1200kmもの広大な地域に警報を出すことになった。ほとんどの人には空振り警報になるから、今後もそれが続くと警報慣れして無視する人が多くなります。

届く水爆弾頭つきの一CBMを完成したという。米国はどうしますかね。田岡・国防長官マティス海兵大将（退役）や大統領首席補佐官ケリー海兵大将（同）、安全保障担当補佐官のマクスター陸軍中将（現役）ら軍人は極めて慎重です。朝鮮戦争が再燃し、滅亡の淵に立つた北朝鮮が自暴自棄になつて核ミサイルを使えば、韓国、北朝鮮双方に致命的打撃となる。日本にも累が及ぶことは軍人なら分かるでしょう。一方、トランプ氏がお気に入りの強硬右派、インド系女性ベイリー国連大使は9月4日の安保理緊急会合で「24年間徐々に制裁を強めて来たが無駄だつた。もう渋山。決定的な制裁が必要だ」と演説、石油の全面禁輸を米国は主張しています。

もしこれをやれば、北朝鮮の命脈を絶つことになるが、金正恩労働党委員長らの政権が腰砕けになつて核廃棄をすれば政権は威信を失い、崩壊する公算大だから核は捨てないでしよう。

南部仏印（ベトナム）に進駐した日本に対し、1941年8月に米国現在）が石油禁輸をした結果、日本は備蓄石油800万tが尽きて降伏するよりは、と真珠湾攻撃に打つ出た。核・ミサイル開発を続ければ、次に完全禁輸にならざるを得ないでしょう。そうなれば北朝鮮が自暴自棄の行動に出て戦争になる可能性は高いと考えます。

米国では「北朝鮮が核を廃棄するはずがないから、インドなどに対し実験などをやらないよう凍結し、国交を結んで懐柔する方が現実的」との説も一部に出ます。確かにこれら当面危機は避けられるが、日本にとつては苦しい。米国に核保有を認められ、国交樹立で政権の存続も保障された北朝鮮は勝者となり、日本、韓国などに対し、核を背景に種々の要求をし、日本は北朝鮮の従属国のようになりかねない。恐喝に一度屈すると次々に脅される。

朝鮮戦争の再燃と核攻撃の危険を覚悟して米国に強硬な対応を求めるか、それとも将来も核に怯えて従属するか、日本は第2次大戦以来最悪の危機に直面しています。（9月9日）